

# 日本のオペラ公演2018

—公演データの分析とその考察—

昭和音楽大学オペラ研究所・石田麻子

## 1. はじめに

本年鑑では、日本で行われるオペラ公演、あるいは日本のオペラ作品の海外公演にテーマを定め、データ収集を続けてきた。21世紀に入り一定の年月が経った現在も引き続き、芸術創造活動のあり方の変化、さらに公演の開催状況に多くの社会現象が映し出される様子が見て取れる。日本で主流を占めてきたオペラ団体による公演制作や招聘オペラ公演に加え、劇場や音楽堂等制作のオペラ公演、さらに小規模な声楽家グループによる公演などが増えて、オペラの上演形態が多様化の一途をたどり、本稿における分析方法にも、こうした近年の状況を反映する必要が出てきている。

これまで、舞台装置を飾り、衣装を着け、演出された全幕公演を分析の対象としてとらえ、数字から傾向を読み取る方針をとってきた。しかし、セミ・ステージ形式として上演される中にも、本格的な舞台上演となる場合が少なからずある。一方、全幕の舞台上演と謳いながら、簡易な舞台装置、衣装、簡便な演出による演奏会形式に近いケースが散見されるようになり、それらの公演等と、セミ・ステージ形式等との明確な区別が難しくなっている。加えて、セミ・ステージ形式等の上演は、その芸術的水準の高さもあって、徐々に、そして確実に無視できない存在になってきていると言えるだろう。

この状況は、編纂委員会における議論をふまえ、本冊子の小畑恒夫編纂委員による「近年のオペラ上演形態の多様性について」(62～66ページ)で整理された。その中で述べられたとおり、本格的な公演に限りなく近いセミ・ステージ形式や、演奏会形式とはいえ演

出家や映像作家の仕事が加わって、舞台上演に近い効果を生み出す公演が確実におこなわれ、その年のトピックとなるような優れた成果があがるケースが増えてきている。

そこで本年から、総上演回数を示したグラフ(図1)に要素を加えることにした。総上演回数に、セミ・ステージ形式や演奏会形式等で、大規模会場で大幕公演した回数を加え、別の折線グラフとして掲載することにしたのである。2018年は一つ点が増えただけだが、これを起点に、「総上演回数」、および「総上演回数+セミ・ステージ形式等上演回数(全幕)」を掲載していきたいと考えている。また、上演団体の数にも、セミ・ステージ形式や演奏会形式等で、大規模会場において全幕公演した団体を積み上げて表記している。

今回は、図1のみの対応で、それ以降の具体的な分析項目に、このセミ・ステージ形式等上演回数の数字は含めてはいないものの、今後、分析対象とする対応が必要となる日も近いと予感している。

### 1-1. A表(大規模会場での公演)とB表(中・小規模会場での公演)、C表(セミ・ステージ形式等の公演)の区分【表1】

本稿では、全幕実施されたオペラ公演のうち、756席以上の大規模会場での公演をA表に、756席未満の中・小規模会場での公演をB表にそれぞれ区分している。この基準は、オペラハウスとしての形を整えている大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスの座席数である。また、小学校や中学校等、各学校の校内体育館や講堂等での公演は、鑑賞した生徒数や座席数にかかわらず、例年通り中・小

表1 分析対象と上演団体の区分（○が本稿での分析対象）

|                         | 1. 国内団体                            | 2. 教育研究団体 | 3. 海外団体 |
|-------------------------|------------------------------------|-----------|---------|
| A表：大規模会場公演＝756席以上の客席数   | ○                                  | ○         | ○       |
| B表：中・小規模会場公演＝756席未満の客席数 | ○                                  | ○         | ○       |
| C表：セミ・ステージ形式等           | 図1のみ○（総上演回数+大規模会場でのセミ・ステージ形式全幕上演等） |           |         |

規模公演に分類している。

前述のとおり、これまではセミ・ステージ形式や演奏会形式等の数字上の分析は行ってこなかった。しかし本号から、総上演回数に、例年はこれらC表に掲載してきた大規模会場でのセミ・ステージ形式や演奏会形式での全幕上演回数と、上演した団体数を積み上げたデータを図1に記載、さらにC表掲載公演は、これまでどおり「6. 演奏会形式など」の項でまとめた。

## 1-2. 国内団体、教育研究団体、海外団体の分類について

(分類手法について)

オペラ団体の公演、劇場・音楽堂等による公演、学生等が自主的に行う公演、団体や劇場間の共同制作公演等は「国内団体公演」に、高等教育機関主催の、教育研究発表を目的とした公演、団体や劇場・音楽堂等の運営する研修所等の発表公演は「教育研究団体公演」に、海外の歌劇場や音楽祭等の来日公演は「海外団体公演」に分類した。

「教育研究団体」は、若手アーティストや学生を教育する場としての継続的なあり方に着目している。例えば、藤原歌劇団公演は「国内団体」で、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部公演は「教育研究団体」とした。若手アーティストを育成するために実施した短期的なプロジェクト形式の活動は「国内団体」に分類した。これには「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI」の公演を「国内団体」としている例などがあてはまる。さらに、シニア層を対象とした生涯学習的要素の強い研修

発表等も「国内団体」に分類した。

(団体数について)

劇場や団体が、他劇場や他団体と共同制作を実施した公演等は、当該組織が単独で実施した公演とは区別して、別団体として数えている。これは、複数の、形態の異なる組織がプロジェクトを組んで、新たな組織間連携を生み、制作体制がその都度編成されている状況を数字でとらえようとしたことによる。劇場・団体間の共同制作が盛んになればなるほど、こうしたプロジェクトの形を正確に把握するために、現場の事情を十分に知る必要が出てきている。

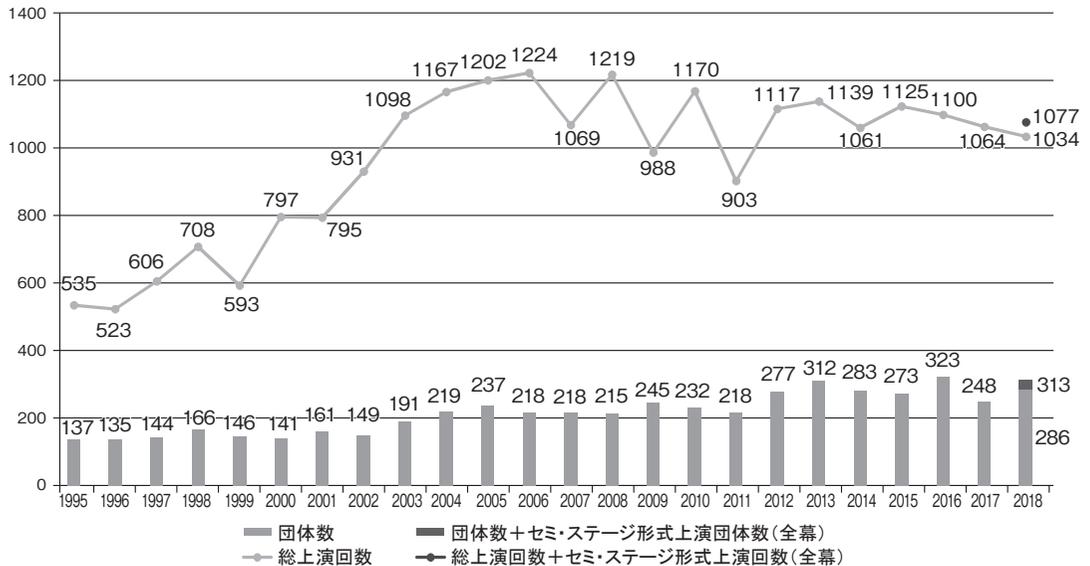
## 2. 日本のオペラ公演2018年

### 2-1. 総上演回数と活動団体数の推移【図1】

2018年は、A表とB表をあわせた総上演回数が1,034回となった。2016年の1,100回、2017年の1,064回からさらに減少している。総上演回数は、近年ほぼ1,100回前後で推移していたのが、減少傾向にある。

前述のとおり、今回から全体的な上演形態の拡大傾向を勘案して、大規模会場における全幕の、セミ・ステージ形式公演および演奏会形式公演の数字を加えていくことにした。その起点となる2018年の数字は、総上演回数1,034回+セミ・ステージ形式等上演回数43回で合計1,077回となった。中・小規模会場で開催された中にも意欲的な上演や世界初演作品等が含まれているものの、多様化した上演形態を整理するには一定の上演規模が確保されていることが適当だと考えたため、まずは大規模会場に限って、さらに全幕・全曲

図1 総上演回数と活動団体数の推移



上演とされたものだけを取り上げた。

上演団体に関しては、2016年には323団体だったのが、2017年は248団体と一気に減少、2018年は286団体と増加した。こうした組織数の増減は、継続的な活動を行っている団体や劇場に加え、各種プロジェクトや歌手達の活動が影響して数字が上下しやすい。

加えて2018年は、上演団体数にも、セミ・ステージ形式等で上演をした団体数を加えた積み上げ棒グラフを掲載している。既に総団体数に含まれている東京二期会などを再度算入することはせず、セミ・ステージ形式等のみを実施した団体の数だけ積み上げたものである。結果として、27団体が新たに該当、286団体から合計313団体となった。これには、オペラ作品を定期演奏会等で演奏している東京交響楽団や東京フィルハーモニー交響楽団等のオーケストラ、中国二期会、宮崎国際音楽祭等が含まれている。

## 2-2. カテゴリー別オペラ上演団体活動状況【表2、図2】

表2以降の全ての分析は、これまで同様に全幕・全曲の完全な舞台上演のみを分析対象

としている。

大規模会場での公演は、2015年の505回から2016年に463回へと減り、2017年は430回、2018年は411回と一層減少している。一方で、中・小規模会場公演は、2016年は637回、2017年は634回、2018年は623回とほぼ同数である。大規模会場での上演回数の減少が、総上演回数減少の要因であることがわかる。この点は、ここ数年の、そして2018年の上演の大きな特色を表していると言えるだろう。

各地のオペラ団体や劇場・音楽堂などによる「国内団体」に関しては、2016年は298団体による995回、2017年は218団体による968回、2018年は248団体による951回となった。このカテゴリーの上演回数が減少していることも近年の特徴である。

教育研究団体は、2016年が18団体による44回、2017年には23団体による56回と、やや回復したが、2018年は19団体による45回と再度減少した。

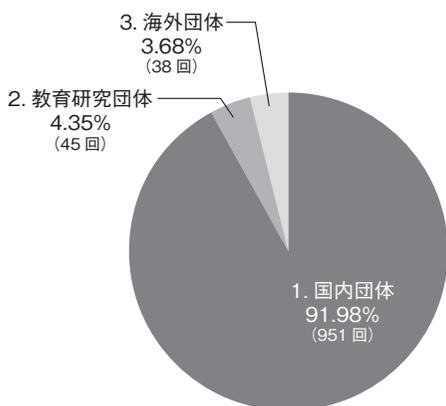
海外団体は一時期、200回を超える公演が記録されてきたが、2011年の東日本大震災

表2 2018年のカテゴリー別オペラ上演団体活動状況一覧

| A. 大規模会場（756席以上） |     |          | B. 中・小規模会場（756席未満） |     |          | 合計（A+B）  |      |       |
|------------------|-----|----------|--------------------|-----|----------|----------|------|-------|
| カテゴリー            | 団体数 | 総上演回数    | カテゴリー              | 団体数 | 総上演回数    | カテゴリー    | 団体数* | 総上演回数 |
| 1.国内団体           | 91  | 351      | 1.国内団体             | 168 | 600      | 1.国内団体   | 248  | 951   |
| 2.教育研究団体         | 11  | 22       | 2.教育研究団体           | 10  | 23       | 2.教育研究団体 | 19   | 45    |
| 3.海外団体           | 6   | 38       | 3.海外団体             | 0   | 0        | 3.海外団体   | 6    | 38    |
| 合計/総団体数・総上演回数    | 108 | 411/1034 | 合計/総団体数・総上演回数      | 178 | 623/1034 | 合計       | 273  | 1034  |

\*団体数の合計は、A表とB表をあわせて再度集計したものの、同一の団体が規模の異なる会場で公演した場合もあるため、A表とB表を合計した数よりも少なくなる。

図2 各カテゴリーの総上演回数が全体に占める割合



をきっかけに激減して以来、減少したままの状況が続いている。2016年の来日公演は7団体で61回、2017年は7団体で40回と減少、2018年は6団体で38回と前年からはほとんど変化していない。

### 2-3. 国内団体公演【表3、表4-1、表4-2】

表3では、2018年に大規模会場で16回以上の公演を実施した国内団体の活動についてまとめた。大規模会場での上演回数411回のうち147回を占めており、日本のオペラ上演の傾向を示す活動群となっている。

東京二期会は、2018年の総上演回数は34回と、前2017年の24回から増加、大規模な公演実施団体でトップとなったが、これはプッチーニ三部作上演での3つの作品を1回ずつ加算したことが一つの原因である。

近年の東京二期会は、演出家の起用に特色がある。《ローエングリン》4回は、映画や演劇を主なフィールドに活動する深作健太による。既に東京二期会で《ダナエの愛》演出をしており、オペラ演出2作目となった。ハンブルク州立歌劇場のプロダクションによる《魔弾の射手》4回は、日本に久しぶりに登場したペーター・コンヴィチュニー演出。プッチーニ三部作《外套》《修道女アンジェリカ》《ジャンニ・スキッキ》の各4回は、ダミアノ・ミキエレットの演出で、デンマーク王立歌劇場とアン・デア・ウィーン劇場との共同制作。準・メルクル、アレホ・ペレス、ベルトラン・ド・ビリーが各公演の指揮を務め、音楽面を支えた。

宮本重門演出の《魔笛》は若手の川瀬賢太郎指揮で、神奈川県民ホールが主催した劇場外での2回の共同制作公演。秋には、2018年の国内共同制作公演で、回数や地域の広がりの意味でも大きなプロジェクトとなった《アイダ》が、ローマ歌劇場との提携公演として実施された。札幌文化芸術劇場 hitaruの開場を飾った2回公演のほか、神奈川県民ホールで2回、兵庫県立芸術文化センター、iichiko総合文化センターグランシアタで各1回の合計6回上演された。これらは、全公演をアンドレア・バッティストーニが指揮、札幌公演2回には札幌交響楽団が、それ以外の4回公演は東京フィルハーモニー交響楽団がオーケストラ・ピットに入った。この他、若手公演で《アルチーナ》を2回、日生劇場で

表3 2018年の国内団体公演活動データ\*1

| 団体名               | 上演作品               | A.大規模会場 |         | B.中・小規模会場 |         | 合計       |
|-------------------|--------------------|---------|---------|-----------|---------|----------|
|                   |                    | 上演回数    | 合計      | 上演回数      | 合計      |          |
| オペラシアターこんにゃく座*2   | 天国と地獄              | 0       | 55      | 12        | 133     | 188      |
|                   | よだかの星              | 1       |         | 4         |         |          |
|                   | タンゲーまほうをかけた舌―      | 1       |         | 20        |         |          |
|                   | 銀の口バ               | 4       |         | 12        |         |          |
|                   | ネズミの涙              | 20      |         | 12        |         |          |
|                   | イヌの仇討あるいは吉良の決断     | 0       |         | 14        |         |          |
|                   | 口はロボットの口           | 0       |         | 25        |         |          |
|                   | おぐりとてくて            | 4       |         | 0         |         |          |
|                   | 森は生きている            | 4       |         | 30        |         |          |
|                   | アルレッキーノ            | 21      |         | 4         |         |          |
| 東京二期会             | ローエングリン            | 4       | 34      | 0         | 0       | 34       |
|                   | 魔笛                 | 2       |         |           |         |          |
|                   | アルチーナ              | 2       |         |           |         |          |
|                   | 魔弾の射手              | 4       |         |           |         |          |
|                   | 外套                 | 4       |         |           |         |          |
|                   | 修道女アンジェリカ          | 4       |         |           |         |          |
|                   | ジャンニ・スキッキ          | 4       |         |           |         |          |
|                   | アイーダ               | 6       |         |           |         |          |
| 後宮からの逃走           | 4                  |         |         |           |         |          |
| 日生劇場              | ルサルカ               | 2       | 22      | 0         | 0       | 22       |
|                   | 魔笛*3               | 15      |         |           |         |          |
|                   | コジ・ファン・トゥッテ        | 5       |         |           |         |          |
| 藤原歌劇団*4           | ナヴァラの娘             | 3       | 14      | 0         | 19      | 39       |
|                   | 道化師                | 3       |         |           |         |          |
|                   | ラ・チェネレントラ～シンデレラ～   | 3       |         |           |         |          |
|                   | ドン・ジョヴァンニ          | 4       |         |           |         |          |
|                   | 椿姫                 | 1       |         |           |         |          |
|                   | フィガロの結婚            | 0       |         |           |         |          |
|                   | 助けて、助けて、宇宙人がやって来た! | 0       |         |           |         |          |
| 日本オペラ協会           | 夕鶴*5               | 6       | 6       | 0         | 0       |          |
| 兵庫県立芸術文化センター      | 夕鶴*5               | 2       | 16      | 0         | 0       | 16       |
|                   | 魔弾の射手              | 8       |         |           |         |          |
|                   | アイーダ*6             | 6       |         |           |         |          |
| 上位5団体合計上演回数/総上演回数 | —                  | —       | 147/411 | —         | 152/623 | 299/1034 |

\*1 大規模会場で16回以上の上演をしている団体。大規模会場での総上演回数の合計順。共催公演、共同制作公演を含む。

\*2 オペラシアターこんにゃく座オペラ塾公演は除く。

\*3 日生劇場は、《魔笛》を、自劇場での9回のほかに、山梨、大分、滋賀(2回)、京都、和歌山で公演している。

\*4 藤原歌劇団と日本オペラ協会は、(公財)日本オペラ振興会内のオペラ団体。

《スザンナの秘密》は、日本オペラ振興会制作だが、五島記念文化財団の主催した研修成果発表公演のため、この表からは除外した。

\*5 兵庫県立芸術文化センター《夕鶴》2回は日本オペラ協会との共同制作公演。日本オペラ協会の夕鶴6回のうち、2回はこの共同制作公演を含む。

\*6 《アイーダ》は兵庫県立芸術文化センターほかとの共同制作によるもので、同センターは6回公演すべてに制作者として名前があがっている。うち、自劇場では1回を公演。

《後宮からの逃走》を4回上演している。

また上記のとおり東京二期会は、海外歌劇場制作のプロダクションを提携して公演、さらに海外の歌劇場と共同制作した舞台を主催公演する傾向が近年顕著である。さらに、国内の各劇場との協働にも特徴があって、国内共同制作公演の核となることで、団体の活動

の多様性を確保している。

日本オペラ振興会は、藤原歌劇団と日本オペラ協会の2団体を事業部に持つ組織。イタリア・オペラを中心とする作品と日本のオペラ作品とをそれぞれ取り上げている。

藤原歌劇団は、2018 都民芸術フェスティバル参加公演として《ナヴァラの娘》と《道化

表4-1 2018年新国立劇場主催のオペラ公演（新国立劇場オペラパレスおよび中劇場プレイハウス：大規模会場公演）

| 上演月    | 作品名     | 作曲家名        | 上演回数   | 公演タイトル   | 特記事項                       |
|--------|---------|-------------|--------|--|----------------------------|
| 1月     | こうもり    | J.シュトラウスII世 | 5      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念公演            | 全3幕/字幕付原語上演                |
| 2月     | 松風      | 細川 俊夫       | 3      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念公演            | 日本初演/新制作/全1幕/字幕付原語(ドイツ語)上演 |
| 2～3月   | ホフマン物語  | J.オッフェンバック  | 4      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念公演            | 全5幕/字幕付原語上演                |
| 3月     | 愛の妙薬    | G.ドニゼッティ    | 4      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念公演            | 全2幕/字幕付原語上演                |
| 4月     | アイーダ    | G.ヴェルディ     | 7      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年特別公演            | 全4幕/字幕付原語上演                |
| 5～6月   | フィデリオ   | L.v.ベートーヴェン | 5      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念特別公演          | 新制作/全2幕/字幕付原語上演            |
| 7月     | トスカ     | G.プッチーニ     | 5      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2017/2018 シーズン 新国立劇場開場20周年記念公演            | 全3幕/字幕付原語上演                |
| 7月     | トスカ     | G.プッチーニ     | 6      | 平成30年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室                                      | 全3幕/字幕付原語上演                |
| 10月    | 魔笛      | W.A.モーツァルト  | 6      | beyond2020 プログラム 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭主催公演 新国立劇場 2018/2019 シーズン開幕公演 | 新制作/全2幕/字幕付原語上演            |
| 11～12月 | カルメン    | G.ビゼー       | 6      | 平成30年度(第73回)文化庁芸術祭協賛公演 beyond2020 プログラム 新国立劇場 2018/2019 シーズン     | 全3幕/字幕付原語上演                |
| 12月    | ファルスタッフ | G.ヴェルディ     | 4      | beyond2020 プログラム 新国立劇場 2018/2019 シーズン                            | 全3幕/字幕付原語上演                |
| —      | 10作品    | 9人          | 55/414 | —  | —                          |

師》を東京文化会館2回、その後愛知県芸術劇場で1回の合計3回ずつ、「川崎・しんゆり芸術祭2018 アルテ・リッカしんゆり10th」で《ラ・チェネレントラ～シンデレラ～》を2回、同プロダクションを大阪国際フェスティバルで1回、合計3回上演。《ドン・ジョヴァンニ》をジュゼッペ・サッパティーニ指揮で、日生劇場3回、さらによこすか芸術劇場で1回の合計4回上演した。《椿姫》1回は、藤沢市民オペラが、2018-2020 シーズンの1年目にあたる同年に、招聘公演として実施し

たもの。同市民オペラ芸術監督の園田隆一郎が指揮、中村恵理が主演した。《助けて、助けて、宇宙人がやって来た!》は、文化庁「文化芸術による子供の育成事業—巡回公演事業—」〈音楽劇公演〉で全国の小学校などを会場に18回上演。これは、2017年に東京文化会館が実施した公演を、藤原歌劇団が学校での巡回公演として制作したものである。

日本オペラ協会は、團伊玖磨作曲の《夕鶴》を2018 都民芸術フェスティバル参加公演として2回、文化庁「戦略的芸術文化創造推進

表4-2 2018年新国立劇場主催のオペラ公演（他会場での公演：大規模会場公演）

| 上演月 | 作品名 | 作曲家名       | 上演回数  | 公演タイトル   | 特記事項   |
|-----|-----|------------|-------|--|--|
| 7月  | トスカ | G.プッチーニ    | 2     | 平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 文化で滋賀を元気に！プロジェクト 関西元気文化圏参加事業 beyond2020 プログラム BIWAKO HALL 20th Anniversary びわ湖ホール・新国立劇場提携オペラ公演 | 全3幕/字幕付原語上演<br>主催：滋賀県/滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール<br>会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール                  |
| 10月 | 魔笛  | W.A.モーツァルト | 2     | 平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業 平成30年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演   | 全2幕/字幕付原語上演<br>主催：京都市/ロームシアター京都（(公財)京都市音楽芸術文化振興財団）/新国立劇場<br>会場：ロームシアター京都メインホール |
| —   | 2作品 | 2人         | 4/414 | —  | —  |

事業」として、山形と秋田でそれぞれ1回の合計4回公演した。これに加えて、兵庫県立芸術文化センターとの共同制作として、同公演を2回実施して、同プロダクションの上演回数は6回となった。

日生劇場は、前2017年に新制作上演した《ルサルカ》を、「ニッセイ名作シリーズ2017」と「NISSAY OPERA 2017」として、各1回ずつ合計2回、静岡で実施した。年度が変わって「ニッセイ名作シリーズ2018」《魔笛》を、自らの劇場で7回（6月12日～21日）上演した後、山梨（7月6日）、大分（9月20日）、滋賀（10月4日）、京都（10月10日）、和歌山（10月15日）で行い、結果12回公演した。これらの公演は、中学生や高校生を招待してのもので、毎年、自らの劇場公演に加えて、各地で本格的なオペラ公演鑑賞の貴重な機会を提供してきた。同劇場は、同じ演目を、「NISSAY OPERA 2018 モーツァルト・シリーズ」として、一般向けにも2回公演（6月16日、17日）実施している。また、びわ湖ホールでは、沼尻竜典オペラセレクションとして、同プロダクションを1回公演した（10月6日）。

さらに、同じく「ニッセイ名作シリーズ2018 モーツァルト・シリーズ」で《コ

ジ・ファン・トゥッテ、あるいは恋人たちの学校》を学校公演として3回、「NISSAY OPERA 2018 モーツァルト・シリーズ」として一般公演2回の計5回公演した。これは、若手のオペラ演出家菅尾友による読み替え演出が、話題となった。

兵庫県立芸術文化センターは、「佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2018」《魔弾の射手》をミヒヤエル・テンメ演出により8回上演。《魔弾の射手》は、2017年の関西二期会の同会場での菅尾友演出による上演に始まり、2018年には、ほぼ時を同じくして、7月18～21日に東京二期会のコンヴィチユニー演出の公演、7月20～29日の兵庫の公演と、東西での競演となった。この他、日本オペラ協会との共同プロダクションによる《夕鶴》2回公演、国内共同制作による既述の《アイダ》1回公演を実施した。

オペラシアターこんにゃく座は、例年200回を超える公演を実施してきた団体だが、2018年は188回となった。前年に比べ、大規模会場での公演は11回、中・小規模会場では32回、それぞれ減少している。

上演回数の関係で、表3には含まれていないが、以下にいくつか特色のある活動や地域をあげておきたい。

びわ湖ホールは、2017年から「びわ湖ホール プロデュースオペラ」として、ミヒャエル・ハンペ演出による「ニーベルングの指環」の上演を開始しており、2018年は芸術監督の沼尻竜典指揮で《ワルキューレ》を2回上演した。加えて、びわ湖ホール声楽アンサンブルなど若手を中心としたキャストिंगで、《ヘンゼルとグレーテル》を角田鋼亮指揮、栗山昌良の演出により2回、《ドン・ジョヴァンニ》を園田隆一郎指揮、伊香修吾演出で2回公演した。

日仏劇場間共同制作事業・ドビュッシー没後100年企画として、マルク・ミンコフスキOEK芸術監督就任記念の《ペレアスとメリザンド》公演が実施された。同プロダクションは、石川県立音楽堂コンサートホールで全幕上演が1回、東京オペラシティ・コンサートホールで、セミ・ステージ形式で1回上演されている。

関西では、劇場、音楽堂による活動以外に、オペラ団体主催の公演活動が着実に行われてきた。しかし、2018年は6月18日に大阪府北部地震が発生したことで打撃を受けた。吹田メイシアター大ホールに、天井の損傷が発生、使用できなくなったのである。これにより、地震発生直後の6月23、24日に予定されていた関西二期会の《カヴァレリア・ルスティカーナ》《パリアッチ（道化師）》の各2回公演、10月20、21日に予定されていた関西歌劇団の第100回定期公演《ファルスタッフ》2回公演が中止となってしまった。その後関西二期会は、兵庫県立芸術文化センターで、菅尾友演出による《サルタン王の物語》2回を実施している。

2018年の愛知県はとてにぎやかだった。愛知県内各地の会場で合計69回全幕公演が開催された。とりわけ、日本人作品のプロダクションが目立った。名古屋二期会は、團伊玖磨作曲《ちゃんちき》を2回公演。

(公財)名古屋市文化振興事業団が、「名古屋市芸術創造センターによる連携企画公演 名古屋二期会・名古屋演奏家ソサエティー・名古屋オペラ協会による芸創オペラ」として、尾上和彦作曲の《藤戸》を4回、名古屋オペラ協会が河出智希作曲《王子とこじき》を4回上演した。この他、愛知祝祭管弦楽団は、コンサートオペラ形式ながら「ニーベルングの指環」全4夜に順次取り組んでいて、2018年は《ジークフリート》を公演した。

表4-1、表4-2の通り、新国立劇場の主催公演は、新制作が3つ。大いに話題を振りまく公演が揃った。

2月には細川俊夫作曲《松風》を3回上演。これは2011年にモネ劇場で世界初演された作品である。サシャ・ヴァルツ演出・振付、塩田千春ほかによる美術等が印象的なプロダクション。デヴィッド・ロバート・コールマン指揮の東京交響楽団による演奏。カタリーナ・ワグナー演出の《フィデリオ》は、5回公演。指揮を務めたのは、同シーズンで芸術監督の任期を終える飯守泰次郎で、これも東京交響楽団がオーケストラ・ピットに入った。

新しいオペラ部門芸術監督には、大野和士が就任。これまでの海外歌劇場等での豊富な経験を礎に、2018/2019シーズンを開始した。最初のプログラムは、10月。ウィリアム・ケントリッジ演出の《魔笛》6回公演。ローラント・ベアー指揮の東京フィルハーモニー交響楽団の演奏による。同プロダクションは「高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演」としても2回公演が行われた。これは園田隆一郎指揮、京都市交響楽団の演奏により、ロームシアター京都で実施されたものである。

この他、2019年6月に亡くなったフランコ・ゼッフィレリ演出の《アイダ》が4月に7回公演され、7月には故アントネッロ・マダウ＝ディアツ演出の《トスカ》が、

「新国立劇場開場20周年記念公演」の締めくくりとして5回上演された。《トスカ》は、加えて「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」として6回、さらにびわ湖ホールの主催事業「BIWAKO HALL 20th Anniversary びわ湖ホール・新国立劇場提携オペラ公演」として2回の、合計13回上演された。

#### 2-4. 教育研究団体公演【表5】

教育研究団体の公演は、2018年は45回。2017年の56回から減少しているが、例年増減を繰り返しながら、40～50回程度の上演回数となっている。各地の芸術系大学の声楽科、管弦楽関連の学科、舞台スタッフ等の学科の教育成果披露の場として、さらに劇場やオペラ団体が運営する研修所等の若手声楽家たちの成果披露の機会として、その継続性に特徴がある。

さらに、オーケストラや製作者、制作者の立場でも多くの学生や教員がかかわり、舞台芸術をつくりあげる総合的な教育の場として機能している。芸術系大学等は、学内に劇場やコンサートホールなどの資源をもっていることが強みとなる。また、2018年も例年と同様に、モーツァルト作品の上演の多さが特徴

だった。

#### 2-5. 海外団体公演【表6、図3】

海外団体公演は、2015年には9団体の公演68回、2016年が7団体による61回公演、2017年は7団体による40回公演と一層の減少傾向にあった。2018年は大幅な減少こそなかったが、6団体による38公演となった。

大規模な歌劇場による上演形態である「拠点型」公演（4都市以下での公演）を、2018年はベルリン・コーミッシェ・オーパーとローマ歌劇場、ウクライナ国立歌劇場が行った。ベルリン・コーミッシェ・オーパーは、同劇場の総監督・首席演出家のバリー・コスキーに加えて、「1927」のスザン・アンドレイドが演出した《魔笛》が東京3回、兵庫3回、広島2回で合計8回公演。これは、世界中で公演されている大ヒット・プロダクション。指揮は、ガブリエル・フェルツが4回、ジョーダン・デ・スーザ2回と、東京と兵庫の6回公演を分担、広島の2回は山田和樹が務めた。

ローマ歌劇場は、ソフィア・コッポラ演出の《椿姫》4回とキアラ・ムーティー演出の《マノン・レスコー》3回を上演した。

ウクライナ国立歌劇場は劇場創立150周年

表5 2018年の教育研究団体公演活動データ\*1

| 団体名          | 作品名         | 作曲家名           | A. 大規模会場 |        | B. 中・小規模会場 |       | 合計      |
|--------------|-------------|----------------|----------|--------|------------|-------|---------|
|              |             |                | 上演回数     | 合計     | 上演回数       | 合計    |         |
| 焼津中央高等学校合唱部  | フィガロの結婚     | W.A. モーツァルト    | 4        | 4      | 0          | 0     | 4       |
| 国立音楽大学       | コジ・ファン・トゥッテ | W.A. モーツァルト    | 2        | 2      | 0          | 0     | 3       |
|              | フィガロの結婚     | W.A. モーツァルト    | 0        | 0      | 1          | 1     |         |
| 新国立劇場オペラ研修所  | イル・カンピエッロ   | E. ヴォルフ=フェッターリ | 3        | 3      | 0          | 0     | 3       |
| 足利オペラ・リリカ    | カルメン        | G. ビゼー         | 2        | 2      | 0          | 0     | 2       |
| 大阪音楽大学       | コジ・ファン・トゥッテ | W.A. モーツァルト    | 2        | 2      | 0          | 0     | 2       |
| 昭和音楽大学       | ファルスタッフ     | G. ヴェルディ       | 2        | 2      | 0          | 0     | 2       |
| 洗足学園音楽大学・大学院 | フィガロの結婚     | W.A. モーツァルト    | 2        | 2      | 0          | 0     | 2       |
| 東京藝術大学       | 魔笛          | W.A. モーツァルト    | 2        | 2      | 0          | 0     | 2       |
| 8団体          | 6作品         | 4人             | —        | 19/414 | —          | 1/623 | 20/1037 |

\*1 大規模会場で、教育研究型公演の開催実績が2回以上ある団体。合計および50音順の掲載。学生主催公演やゼミ単位の公演、有志による公演などは含まない。

表6 2018年海外団体\*1の公演活動データ(A.大規模会場)

| 形態*2 | 上演月  | 国名    | 劇場名                     | 上演作品名      | 作曲家名       | 上演回数 | 合計/総上演回数 | 開催都市数 |
|------|------|-------|-------------------------|------------|------------|------|----------|-------|
| 拠点   | 1月   | ウクライナ | キエフ・オペラ<br>(ウクライナ国立歌劇場) | トゥーランドット   | G.プッチーニ    | 2    | 3        | 1     |
|      |      |       |                         | 椿姫         | G.ヴェルディ    | 1    |          | 1     |
| 拠点   | 4月   | ドイツ   | ベルリン・コミッシェ・オーパー         | 魔笛         | W.A.モーツァルト | 8    | 8        | 3     |
| 巡回   | 6~7月 | イタリア  | イタリア・バーリ歌劇場             | イル・トロヴァトーレ | G.ヴェルディ    | 3    | 7        | 2     |
|      |      |       |                         | トゥーランドット   | G.プッチーニ    | 4    |          | 4     |
| その他  | 9月   | イタリア  | ボローニャフィルハーモニー管弦楽団       | トスカ        | G.プッチーニ    | 2    | 2        | 1     |
| 拠点   | 9月   | イタリア  | ローマ歌劇場                  | 椿姫         | G.ヴェルディ    | 4    | 7        | 1     |
|      |      |       |                         | マノン・レスコー   | G.プッチーニ    | 3    |          | 2     |
| 巡回   | 10月  | ブルガリア | ブルガリア国立歌劇場              | カルメン       | G.ビゼー      | 8    | 11       | 7     |
|      |      |       |                         | トゥーランドット   | G.プッチーニ    | 3    |          | 3     |
| —    |      | 4ヶ国   | 6団体                     | 7作品        | 4人         | 38   | 38/1034  | 14都市  |

\*1 劇場名は、主催者表記に準じる。

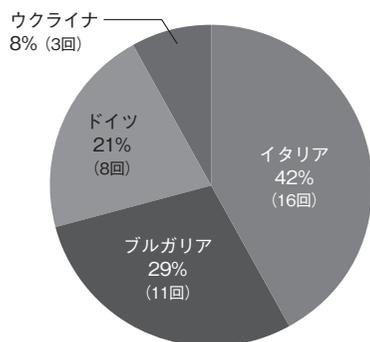
\*2 形態の分類手法は以下のとおり。

「拠点型」：1回の来日で、4都市以下での公演を行う歌劇場公演。東京23区とそれ以外の東京都内の市は分け、各1都市として区別する。  
例：東京文化会館、府中の森芸術劇場での開催の場合、異なる2都市での開催とする。

「巡回型」：1回の来日で、5都市以上で公演を行う歌劇場公演。

「その他」：音楽祭、合唱団などの芸術団体、実行委員会やプロジェクト等による公演。いわゆる歌劇場全体の引越し公演とは異なる形態もある。

図3 2018年海外団体の公演（全41回）・所属国別割合



を記念しての公演で、《トゥーランドット》2回、《椿姫》1回の合計3回を上演したが、今回は「巡回型」公演を展開する同歌劇場のこれまでの公演形態とは異なっていた。

「巡回型」公演（5都市以上での公演）は、イタリアのバーリ歌劇場が、全国5都市で《イル・トロヴァトーレ》3回と《トゥーランドット》4回の合計7回取り上げた。名作オペラで日本全国を公演して回る典型的な「巡回型」である。同じく「巡回型」となったのはブルガリア国立歌劇場で、東欧圏の歌劇場による例年どおりの興行形態となった。今回は全国9都市で11回の公演を実施、うち、《カル

メン》は原田慶太楼指揮で8回公演、《トゥーランドット》は3回公演で、いずれも演出は同歌劇場総裁のプラーメン・カルターロフが務めた。

### 3. 指揮者と演出家

(指揮者)

2018年に登場した指揮者は、国内外あわせて194人。

2018年、大規模会場での全幕公演を振って最も回数の多かった指揮者は沼尻竜典で、合計17回を記録した。日生劇場の《魔笛》15回、びわ湖ホール《ワルキューレ》2回による。次いで、合計14回の園田隆一郎。日本オペラ協会他の《夕鶴》6回、藤原歌劇団他の《ラ・チェネレントラ》3回と《椿姫》1回、びわ湖ホール《ドン・ジョヴァンニ》2回、新国立劇場による高校生のための鑑賞教室・関西公演《魔笛》2回によって回数を重ねた。

次いで日本人指揮者では、佐渡裕が兵庫県立文化センターの《魔弾の射手》で8回、原田慶太楼が前述のブルガリア国立歌劇場の《カルメン》で8回となった。

海外の指揮者では、ベルトラン・ド・ビ

リーが12回。東京二期会のプッチーニ三部作《外套》《修道女アンジェリカ》《ジャンニ・スキッキ》の三作品を4回ずつ加えたことによる。デリック・イノウエが、セイジ・オザワ 松本フェスティバルでの《ジャンニ・スキッキ》5回、小澤征爾音楽塾での《子どもと魔法》4回を振って合計9回となった。

(演出家)

2018年は88人の演出家が記録された。この数字には連名での演出家は含め、再演演出家は含めていない。

ここでは大規模会場での演出回数を重ねた演出家を中心に取り上げる。岩田達宗が、大規模会場での演出を20回、中・小規模会場での29回の合計49回となって突出している。日本オペラ協会他の《夕鶴》6回、藤原歌劇団《ドン・ジョヴァンニ》4回、加藤昌則作曲の《白虎》2回、ひろしまオペラ・音楽推進委員会《イドメネオ》を2回、名古屋二期会の《ちゃんちき》2回等、複数のプロダクションでの演出を重ねた。藤原歌劇団の文化庁の子供の育成事業による学校公演《助けて、助けて、宇宙人がやって来た！》18回の演出も岩田である。

このほかに大規模会場での公演で多くなったのは、デイビッド・ニースが《ジャンニ・スキッキ》11回と《子どもと魔法》4回で合計15回。佐藤美晴が日生劇場の《魔笛》で15回、新国立劇場の《トスカ》で故アントネッロ・マダウ＝ディアツが13回。これらは、特定のプロジェクトやプロダクションが、各地での公演を重ねたことで回数が増えたケースである。

中村敬一は、富山オペラ協会の《こうもり》のほか、教育研究団体の公演など、大規模会場での10回、中・小規模会場の17回で合計27回となった。直井研二は、立川市民オペラ《椿姫》やオペラ彩《トスカ》など大規模会場で9回のほか、中・小規模会場での7回をあわせて16回と、各地で演出実績を重ねた。

#### 4. オペラ作品と作曲家【表7】

2018年は海外の作品上演は640回となり、2017年の607回から増加、作品数は85作品と前年と同数だった。日本の作品の上演回数は、2017年の458回から2018年は394回と大幅に減少した。2018年の作品数は84作品で、これも前年とほぼ同数である。ただし、

表7 2018年オペラ作品、作曲家別の上演回数

|       | 海外の作品   |       |      | 日本の作品   |      |      | 合計        |       |       |
|-------|---------|-------|------|---------|------|------|-----------|-------|-------|
|       | 作曲家数    | 作品数   | 上演回数 | 作曲家数    | 作品数  | 上演回数 | 作曲家数      | 作品数   | 総上演回数 |
| 2004年 | 49人     | 99作品  | 753回 | 43人     | 61作品 | 414回 | 92人       | 160作品 | 1167回 |
| 2005年 | 57人     | 111作品 | 826回 | 50人     | 60作品 | 376回 | 107人      | 171作品 | 1202回 |
| 2006年 | 47人     | 100作品 | 800回 | 50人     | 71作品 | 424回 | 97人       | 171作品 | 1224回 |
| 2007年 | 55人     | 105作品 | 721回 | 41(46)人 | 59作品 | 352回 | 96(101)人  | 164作品 | 1073回 |
| 2008年 | 50(51)人 | 107作品 | 782回 | 51(52)人 | 70作品 | 437回 | 101(103)人 | 177作品 | 1219回 |
| 2009年 | 49(50)人 | 99作品  | 653回 | 48(49)人 | 48作品 | 335回 | 97(99)人   | 147作品 | 988回  |
| 2010年 | 42(44)人 | 86作品  | 654回 | 41人     | 59作品 | 516回 | 83(85)人   | 145作品 | 1170回 |
| 2011年 | 38人     | 88作品  | 530回 | 34(36)人 | 51作品 | 373回 | 72(74)人   | 139作品 | 903回  |
| 2012年 | 51(52)人 | 97作品  | 636回 | 55(56)人 | 75作品 | 481回 | 106(108)人 | 172作品 | 1117回 |
| 2013年 | 41(45)人 | 99作品  | 675回 | 56(59)人 | 83作品 | 464回 | 97(104)人  | 184作品 | 1139回 |
| 2014年 | 44人     | 87作品  | 607回 | 50(52)人 | 84作品 | 454回 | 94(96)人   | 171作品 | 1061回 |
| 2015年 | 44(45)人 | 89作品  | 690回 | 58(61)人 | 84作品 | 435回 | 102(106)人 | 173作品 | 1125回 |
| 2016年 | 51(53)人 | 99作品  | 669回 | 52人     | 86作品 | 431回 | 103(105)人 | 185作品 | 1100回 |
| 2017年 | 41人     | 85作品  | 607回 | 54人     | 83作品 | 458回 | 95人       | 168作品 | 1065回 |
| 2018年 | 44人     | 85作品  | 640回 | 53人     | 84作品 | 394回 | 97人       | 169作品 | 1034回 |

\* ( ) 内は、共作者・編曲者等を入れた場合の数字。

この区分においても、日本の作品とはという定義づけに課題が残る。日本語台本を使って作曲しない日本人作曲家作品も増えた。オペラ作品のボーダレス化は一層進んでいる。

#### 4-1. 海外のオペラ作品と作曲家【表8-1、表8-2】

2018年は《魔笛》が47回で、総上演回数では1位になった。新国立劇場、日生劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパーなどが、自身の劇場内外の大規模な会場で公演実施したことが要因である。

2位の《カルメン》は、新国立劇場、ブルガ

リア国立歌劇場の公演に加えて、足利市民会館など、各地の組織が上演したことによる。

モーツァルト、プッチーニ、ヴェルディが上位を占めるのも例年同様の傾向で、2018年はモーツァルトが113回でトップだった。この他、メノッティが56回で4位に入った。これは、《助けて、助けて、宇宙人がやって来た！》21回、《電話》17回などによる。

海外のオペラ作品の日本初演作品では、藤原歌劇団によるマスネ作曲の《ナヴァラの娘》が主な実績となった。

表8-1 2018年に日本で上演された海外のオペラ作品

(大規模会場での上演実績のあるもの、全85作品中・上位16作品、タイトルは便宜的に統一)

| No.          | 作品名                | 作曲家名        | A.大規模会場 | B.中・小規模会場 | 合計       |
|--------------|--------------------|-------------|---------|-----------|----------|
| 1            | 魔笛                 | W.A. モーツァルト | 35      | 12        | 47       |
| 2            | カルメン               | G. ビゼー      | 25      | 10        | 35       |
| 3            | こうもり               | J. シュトラウスⅡ  | 13      | 19        | 32       |
| 4            | ジャンニ・スキッキ          | G. プッチーニ    | 16      | 8         | 24       |
| 5            | ヘンゼルとグレーテル         | E. フンパーディンク | 13      | 10        | 23       |
| 5            | コジ・ファン・トゥッテ        | W.A. モーツァルト | 10      | 13        | 23       |
| 7            | トスカ                | G. プッチーニ    | 17      | 4         | 21       |
| 7            | フィガロの結婚            | W.A. モーツァルト | 8       | 13        | 21       |
| 7            | 天国と地獄              | J. オッフエンバック | 1       | 20        | 21       |
| 7            | 助けて！助けて！宇宙人がやってきた！ | G.C. メノッティ  | 0       | 21        | 21       |
| 11           | 椿姫                 | G. ヴェルディ    | 11      | 9         | 20       |
| 11           | 小鳥売り               | H. ツェラー     | 1       | 17        | 18       |
| 13           | アイーダ               | G. ヴェルディ    | 17      | 0         | 17       |
| 13           | 電話                 | G.C. メノッティ  | 4       | 13        | 17       |
| 15           | 愛の妙薬               | G. ドニゼッティ   | 9       | 7         | 16       |
| 15           | 蝶々夫人               | G. プッチーニ    | 7       | 9         | 16       |
| 合計/<br>総上演回数 | —                  | —           | 187/414 | 185/623   | 372/1037 |

表8-2 2018年に日本で上演された海外の作曲家 (全44人中、上位10人)

| No.          | 作曲家名        | 上演回数     |
|--------------|-------------|----------|
| 1            | W.A. モーツァルト | 113      |
| 2            | G. プッチーニ    | 107      |
| 3            | G. ヴェルディ    | 67       |
| 4            | G. メノッティ    | 56       |
| 5            | G. ビゼー      | 35       |
| 6            | J. シュトラウスⅡ世 | 32       |
| 7            | G. ドニゼッティ   | 29       |
| 8            | J. オッフエンバック | 26       |
| 9            | E. フンパーディンク | 23       |
| 9            | H. ツェラー     | 18       |
| 合計/<br>総上演回数 | —           | 506/1037 |

#### 4-2. 日本のオペラ作品と作曲家【表9-1、表9-2】

林光、萩京子らの作品が、上演回数上位となっているのは、例年通り、オペラシアターこんにゃく座が大規模、および中・小規模会場で繰り返し上演したことによる。さらに李在浩作曲の《トラの恩がえし》も「巡回型」公演により、上演回数が多くなっている。さらに、團伊玖磨の《夕鶴》は複数の団体が上演したことで、回数を増やした。

日本人作曲家によるオペラ作品も数多く新たに上演されている。大規模な上演としては、細川俊夫作曲の《松風》が海外から逆輸入する形で、新国立劇場で日本初演されたことが目立つ。この他、大規模会場で宮崎県オペラ協会の佐橋俊彦作曲《赤毛のアン》が世界初演されたほか、いくつもの初演作品が生まれている。

#### 5. 上演地域の分布と会場別データ

【表10、表11、図4、表12】

オペラ公演開催が確認できなかった都道府

県の有無が、毎年に関心の一つとなる。2018年は、香川県と佐賀県で全幕のオペラ公演が確認できなかった。

2018年は、東京が1位となったのは例年のこと。次いで2位に愛知が入り、3位が神奈川県となった。千葉、広島、兵庫、埼玉と続く。加えて、大阪、静岡、北海道が10位までにいった。

東京は、2017年は390回だったのが、2018年には422回と、大幅に増え、かつ他を引き離している。国内団体による公演が、2017年は348回だったのが、2018年は387回へと大幅に増えたことが要因である。海外団体の上演回数は、2016年が29回だったのが、2017年は19回に減少し、2018年も19回にとどまった。教育研究団体は2016年は17回、2017年は23回と微増したが、2018年は16回と再び減少した。

既述の通り、2018年に目立ったのは愛知県の活況である。国内団体の活動において、新作が発表される機会が複数あった。名古屋

表9-1 2018年に国内で上演された日本のオペラ作品（A.大規模会場） \*大規模会場で、上演回数10回以上の作品。

| No.        | 作品名     | 作曲家   | 上演回数   | 上演団体数 | 公演団体                      | 備考              |
|------------|---------|-------|--------|-------|---------------------------|-----------------|
| 1          | ネズミの涙   | 萩 京子  | 20     | 1     | オペラシアターこんにゃく座             | 中・小規模会場で12回公演あり |
| 2          | アルレッキーノ | 萩 京子  | 21     | 1     | オペラシアターこんにゃく座             | 中・小規模会場で4回公演あり  |
| 3          | 夕鶴      | 團 伊玖磨 | 10     | 4     | 日本オペラ協会 / (公財) 日本オペラ振興会ほか |                 |
| 合計 / 総上演回数 |         |       | 51/414 | —     | —                         | —               |

表9-2 2018年に国内で上演された日本のオペラ作品（B.中・小規模会場）

\*中・小規模会場で、上演回数20回以上の作品。

| No.        | 作品名          | 作曲家  | 上演回数    | 上演団体数 | 公演団体                      | 備考           |
|------------|--------------|------|---------|-------|---------------------------|--------------|
| 1          | トラの恩がえし      | 李 在浩 | 38      | 1     | オペレッタ劇団ともしび               | 大規模会場で4回公演あり |
| 2          | 森は生きている      | 林 光  | 30      | 1     | オペラシアターこんにゃく座             | 大規模会場で4回公演あり |
| 3          | 口はロボットの口     | 萩 京子 | 27      | 2     | オペラシアターこんにゃく座、劇団おとみっく     |              |
| 4          | あまんじゃくとうりこひめ | 林 光  | 24      | 5     | 東京合唱協会、LCアルモーニカ、東京室内歌劇場ほか |              |
| 5          | タンギーまほうをかけた舌 | 萩 京子 | 20      | 1     | オペラシアターこんにゃく座             | 大規模会場で1回公演あり |
| 合計 / 総上演回数 |              |      | 139/623 | —     | —                         | —            |

表10 2018年の都道府県別上演回数

| No. | 都道府県名 | 国内団体 |      | 教育研究団体 |      | 海外団体 |      | 合計  |      |           |
|-----|-------|------|------|--------|------|------|------|-----|------|-----------|
|     |       | 団体数  | 上演回数 | 団体数    | 上演回数 | 団体数  | 上演回数 | 団体数 | 上演回数 | 上演回数順位    |
| 1   | 北海道   | 9    | 23   | 0      | 0    | 0    | 0    | 9   | 23   | <b>10</b> |
| 2   | 青森    | 1    | 1    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 1    | 41        |
| 3   | 岩手    | 1    | 4    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 4    | 30        |
| 4   | 宮城    | 2    | 5    | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 5    | 25        |
| 5   | 秋田    | 3    | 3    | 0      | 0    | 0    | 0    | 3   | 3    | 34        |
| 6   | 山形    | 4    | 4    | 0      | 0    | 0    | 0    | 4   | 4    | 30        |
| 7   | 福島    | 3    | 4    | 0      | 0    | 0    | 0    | 3   | 4    | 30        |
| 8   | 茨城    | 7    | 15   | 0      | 0    | 1    | 1    | 8   | 16   | 15        |
| 9   | 栃木    | 5    | 6    | 1      | 2    | 0    | 0    | 6   | 8    | 21        |
| 10  | 群馬    | 2    | 3    | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 3    | 34        |
| 11  | 埼玉    | 16   | 35   | 0      | 0    | 1    | 1    | 17  | 36   | <b>7</b>  |
| 12  | 千葉    | 9    | 44   | 0      | 0    | 0    | 0    | 9   | 44   | <b>4</b>  |
| 13  | 東京    | 111  | 387  | 6      | 16   | 4    | 19   | 121 | 422  | <b>1</b>  |
| 14  | 神奈川   | 18   | 53   | 3      | 7    | 1    | 1    | 22  | 61   | <b>3</b>  |
| 15  | 新潟    | 5    | 5    | 0      | 0    | 0    | 0    | 5   | 5    | 25        |
| 16  | 富山    | 2    | 3    | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 3    | 34        |
| 17  | 石川    | 5    | 17   | 0      | 0    | 0    | 0    | 5   | 17   | 14        |
| 18  | 福井    | 0    | 0    | 0      | 0    | 1    | 1    | 1   | 1    | 41        |
| 19  | 山梨    | 5    | 8    | 0      | 0    | 0    | 0    | 5   | 8    | 21        |
| 20  | 長野    | 5    | 14   | 0      | 0    | 0    | 0    | 5   | 14   | 17        |
| 21  | 岐阜    | 7    | 18   | 0      | 0    | 0    | 0    | 7   | 18   | 13        |
| 22  | 静岡    | 10   | 20   | 1      | 4    | 0    | 0    | 11  | 24   | <b>9</b>  |
| 23  | 愛知    | 15   | 57   | 3      | 8    | 3    | 4    | 21  | 69   | <b>2</b>  |
| 24  | 三重    | 3    | 8    | 0      | 0    | 1    | 1    | 4   | 9    | 19        |
| 25  | 滋賀    | 6    | 15   | 0      | 0    | 1    | 1    | 7   | 16   | 15        |
| 26  | 京都    | 8    | 19   | 2      | 3    | 0    | 0    | 10  | 22   | 11        |
| 27  | 大阪    | 11   | 25   | 2      | 3    | 1    | 1    | 14  | 29   | <b>8</b>  |
| 28  | 兵庫    | 16   | 34   | 1      | 2    | 2    | 4    | 19  | 40   | <b>6</b>  |
| 29  | 奈良    | 3    | 5    | 0      | 0    | 0    | 0    | 3   | 5    | 25        |
| 30  | 和歌山   | 4    | 6    | 0      | 0    | 0    | 0    | 4   | 6    | 23        |
| 31  | 鳥取    | 2    | 4    | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 4    | 30        |
| 32  | 島根    | 2    | 11   | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 11   | 18        |
| 33  | 岡山    | 2    | 20   | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 20   | 12        |
| 34  | 広島    | 8    | 40   | 0      | 0    | 1    | 2    | 9   | 42   | <b>5</b>  |
| 35  | 山口    | 1    | 5    | 0      | 0    | 1    | 1    | 2   | 6    | 23        |
| 36  | 徳島    | 1    | 2    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 2    | 38        |
| 37  | 香川    | 0    | 0    | 0      | 0    | 0    | 0    | 0   | 0    | —         |
| 38  | 愛媛    | 1    | 1    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 1    | 41        |
| 39  | 高知    | 1    | 1    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 1    | 41        |
| 40  | 福岡    | 4    | 8    | 0      | 0    | 1    | 1    | 5   | 9    | 19        |
| 41  | 佐賀    | 0    | 0    | 0      | 0    | 0    | 0    | 0   | 0    | —         |
| 42  | 長崎    | 2    | 2    | 0      | 0    | 0    | 0    | 2   | 2    | 38        |
| 43  | 熊本    | 4    | 5    | 0      | 0    | 0    | 0    | 4   | 5    | 25        |
| 44  | 大分    | 3    | 3    | 0      | 0    | 0    | 0    | 3   | 3    | 34        |
| 45  | 宮崎    | 3    | 5    | 0      | 0    | 0    | 0    | 3   | 5    | 25        |
| 46  | 鹿児島   | 1    | 1    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 1    | 41        |
| 47  | 沖縄    | 1    | 2    | 0      | 0    | 0    | 0    | 1   | 2    | 38        |
| 合計  | —     | —    | 951  | —      | 45   | —    | 38   | —   | 1034 | —         |

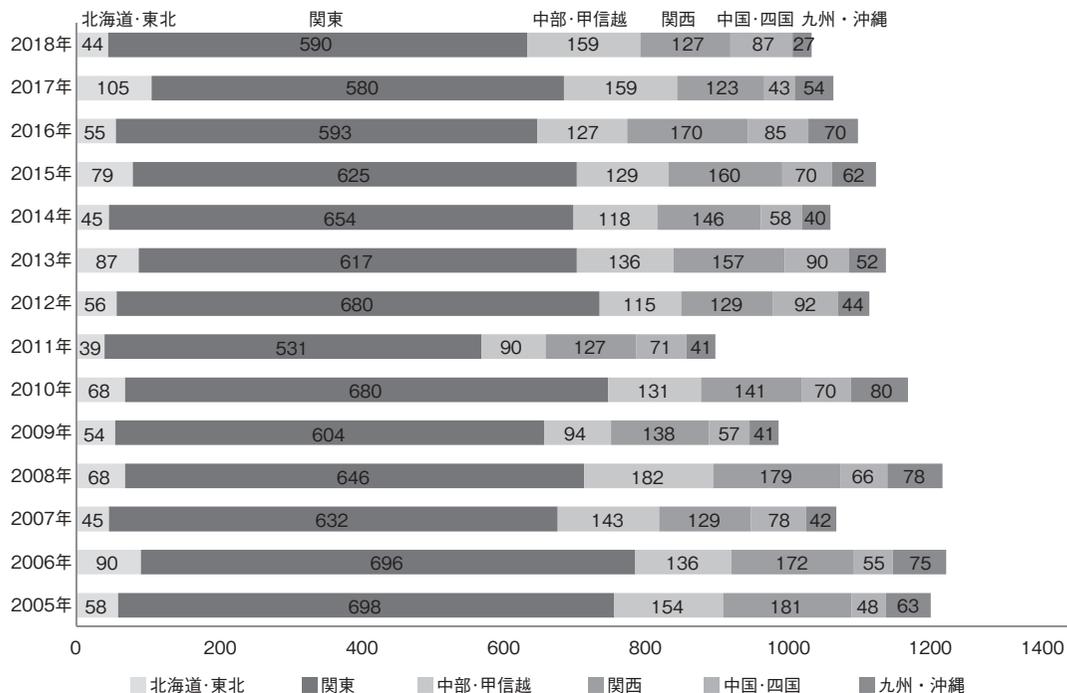
\* 愛知県立芸術大学《シンデレラ》は、大学単独制作と、大学・会場による共同制作の回がそれぞれ記録されているものの、後者に関しても同大学公演とタイトルに入っているため、同一組織による公演とカウントした。

表11 2018年の都道府県別・地域別、公演会場規模別分布

| 都道府県名 | A.大規模会場 |      | B.中・小規模会場 |      | 上演回数比率 | 地域     |
|-------|---------|------|-----------|------|--------|--------|
|       | 会場数     | 上演回数 | 会場数       | 上演回数 | 総上演回数  |        |
| 北海道   | 2       | 3    | 5         | 20   | 4.26%  | 北海道・東北 |
| 青森    | 1       | 1    | 0         | 0    |        |        |
| 岩手    | 2       | 2    | 2         | 2    |        |        |
| 宮城    | 1       | 4    | 1         | 1    |        |        |
| 秋田    | 2       | 2    | 1         | 1    |        |        |
| 山形    | 2       | 2    | 2         | 2    |        |        |
| 福島    | 3       | 4    | 0         | 0    |        |        |
| 地域合計  | 13      | 18   | 11        | 26   | 44     |        |
| 茨城    | 5       | 8    | 8         | 8    | 57.06% | 関東     |
| 栃木    | 2       | 4    | 3         | 4    |        |        |
| 群馬    | 1       | 1    | 2         | 2    |        |        |
| 埼玉    | 12      | 20   | 8         | 16   |        |        |
| 千葉    | 5       | 15   | 22        | 29   |        |        |
| 東京    | 27      | 169  | 96        | 253  |        |        |
| 神奈川   | 11      | 21   | 24        | 40   |        |        |
| 地域合計  | 63      | 238  | 163       | 352  | 590    |        |
| 新潟    | 1       | 2    | 2         | 3    | 15.38% | 中部・甲信越 |
| 富山    | 1       | 1    | 1         | 2    |        |        |
| 石川    | 7       | 7    | 7         | 10   |        |        |
| 福井    | 1       | 1    | 0         | 0    |        |        |
| 山梨    | 1       | 1    | 5         | 7    |        |        |
| 長野    | 2       | 6    | 4         | 8    |        |        |
| 岐阜    | 2       | 3    | 14        | 15   |        |        |
| 静岡    | 4       | 9    | 12        | 15   |        |        |
| 愛知    | 5       | 12   | 18        | 57   |        |        |
| 地域合計  | 24      | 42   | 63        | 117  | 159    |        |
| 三重    | 1       | 1    | 7         | 8    | 12.28% | 関西     |
| 滋賀    | 1       | 11   | 5         | 5    |        |        |
| 京都    | 5       | 16   | 5         | 6    |        |        |
| 大阪    | 3       | 9    | 14        | 20   |        |        |
| 兵庫    | 3       | 20   | 10        | 20   |        |        |
| 奈良    | 0       | 0    | 4         | 5    |        |        |
| 和歌山   | 1       | 1    | 4         | 5    |        |        |
| 地域合計  | 14      | 58   | 49        | 69   | 127    |        |
| 鳥取    | 3       | 3    | 1         | 1    | 8.41%  | 中国・四国  |
| 島根    | 2       | 2    | 8         | 9    |        |        |
| 岡山    | 5       | 12   | 8         | 8    |        |        |
| 広島    | 4       | 13   | 12        | 29   |        |        |
| 山口    | 3       | 3    | 3         | 3    |        |        |
| 徳島    | 0       | 0    | 1         | 2    |        |        |
| 香川    | 0       | 0    | 0         | 0    |        |        |
| 愛媛    | 1       | 1    | 0         | 0    |        |        |
| 高知    | 1       | 1    | 0         | 0    |        |        |
| 地域合計  | 19      | 35   | 33        | 52   | 87     |        |
| 福岡    | 3       | 8    | 1         | 1    | 2.61%  | 九州・沖縄  |
| 佐賀    | 0       | 0    | 0         | 0    |        |        |
| 長崎    | 0       | 0    | 2         | 2    |        |        |
| 熊本    | 1       | 2    | 1         | 3    |        |        |
| 大分    | 2       | 3    | 0         | 0    |        |        |
| 宮崎    | 1       | 4    | 1         | 1    |        |        |
| 鹿児島   | 1       | 1    | 0         | 0    |        |        |
| 沖縄    | 1       | 2    | 0         | 0    |        |        |
| 地域合計  | 9       | 20   | 5         | 7    | 27     |        |
| 合計    | 142     | 411  | 324       | 623  | 1034   | —      |

同一館内の複数の会場、同一大学内の複数の会場は、規模別に1カ所とした。  
 例：新国立劇場オペラ劇場、新国立劇場中劇場は大規模会場で1カ所。  
 新国立劇場小劇場は中・小規模会場で1カ所。

図4 地域別総上演回数推移（単位・回）



オペラ協会が河出智希作曲の《王子とこじき》を4回、名古屋演奏家ソサエティーが森彩音作曲《忠臣蔵～その命 桜のごとし》を4回、このほかに実行委員会形式で、蒔田裕也作曲《人魚姫》が2回、安田ゆかり作曲の《ジャックと豆の木》4回等が新作初演され、さらに藤原歌劇団が《ナヴァラの娘》の日本初演を1回行った。国内団体57回、教育研究団体8回、海外団体4回と着実に多様な公演が開催された結果、大規模会場、中・小規模会場あわせて合計69回となった。

関西圏では、兵庫県が6位となった。これは、兵庫県立芸術文化センターを会場に、館の自主公演やそのほかの団体の公演が数多く開催されたことなどが理由である。大阪府は、6月に大阪府北部地震が起きて、吹田のメシアター大ホールが使えなくなり、関西二期会の6月の本公演や関西歌劇団の10月の本公演が中止となってしまったが、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスやフェス

ティバルホールなど大規模な会場での公演に加え、中・小規模会場の公演が数多くおこなわれるなどして、8位と健闘した。

表11では、大規模会場での公演、中・小規模会場での公演別の実施状況がわかる。全幕公演が一回も確認されなかった香川県、佐賀県以外にも、奈良県、徳島県、長崎県で、大規模会場での公演がないことがわかる。また、大規模会場公演が記録されていても、青森県が弘前シティオペラの1回、愛媛県が歌工房ボン・ヴォヤージュ（団体所在地は東京）の1回、高知県が土佐清水市立市民文化会館の1回、沖縄県が沖縄オペラアカデミーの2回公演のみである。このことから、大規模会場での上演を各地の民間オペラ団体の活動が支えている状況がわかる。

さらに、福井県は、福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）での、ブルガリア国立歌劇場の1回が、唯一記録された全幕上演である。一方、全幕上演が確認されなかった香

表12 2018年の会場別総上演回数（A.大規模会場で8回以上開催の会場。[ ]内は同一施設内のB.中・小規模会場）

| 順位                   | 都道府県 | 会場名                          | 国内団体     | 教育研究団体 | 海外団体 | 小計          | 総上演回数                       | 客席数*2(席)          | 総客席数(席)*3            |
|----------------------|------|------------------------------|----------|--------|------|-------------|-----------------------------|-------------------|----------------------|
| 1                    | 東京都  | 新国立劇場オペラ劇場                   | 68       | 0      | 0    | 68          | 73                          | 1,814             | 128,542              |
|                      |      | 新国立劇場中劇場                     | 2        | 3      | 0    | 5           |                             | 1,038             |                      |
| 2                    | 東京都  | 東京文化会館 大ホール                  | 16       | 0      | 12   | 28          | 28                          | 2,303             | 64,484               |
|                      |      | 東京文化会館 小ホール                  | [3]      | 0      | 0    | [3]         |                             | [649]             |                      |
| 3                    | 東京都  | 日生劇場                         | 21       | 0      | 0    | 21          | 21                          | 1,330             | 27,930               |
| 4                    | 兵庫県  | 兵庫県立芸術文化センター<br>KOBELCO 大ホール | 9        | 0      | 4    | 13          | 18<br>[21]                  | 2,001             | 30,013<br>[31,264]   |
|                      |      | 兵庫県立芸術文化センター<br>阪急 中ホール      | 5        | 0      | 0    | 5           |                             | 800               |                      |
|                      |      | 兵庫県立芸術文化センター<br>神戸女学院 小ホール   | [3]      | 0      | 0    | [3]         |                             | [417]             |                      |
| 5                    | 滋賀県  | びわ湖ホール大ホール                   | 6        | 0      | 1    | 7           | 11                          | 1,848             | 16,152               |
|                      |      | びわ湖ホール中ホール                   | 4        | 0      | 0    | 4           |                             | 804               |                      |
| 6                    | 広島県  | JMS アステールプラザ<br>大ホール         | 8        | 0      | 0    | 8           | 8<br>[14]                   | 1,204             | 9,632<br>[12,921]    |
|                      |      | JMS アステールプラザ<br>中ホール（能舞台）    | [5]      | 0      | 0    | [5]         |                             | [613]             |                      |
|                      |      | JMS アステールプラザ<br>多目的ホール       | [1]      | 0      | 0    | [1]         |                             | [224]             |                      |
| 7                    | 京都府  | ロームシアター京都メインホール              | 8        | 0      | 0    | 8           | 8                           | 2,005             | 16,040               |
|                      |      | ロームシアター京都サウスホール              | [1]      | 0      | 0    | [1]         |                             | [9]               |                      |
| 合計/総上演回数<br>客席数・総客席数 |      | —                            | 147 [13] | 3      | 17   | 167<br>[13] | 167 [180] *1<br>/414 [1037] | 15,147<br>[2,619] | 264,863<br>[272,066] |

\*1 大規模会場の総上演回数は、併設する中・小規模会場の上演回数を含めた数字を [ ] 内に表した。

\*2 各会場の1回あたりの客席数は、オーケストラピット設置の有無、会場の使用形式にかかわらず、最大値とした。  
例（新国立劇場中劇場1038席/回）

\*3 大規模会場の総客席数は、併設する中・小規模会場で行われた上演の客席数を含めて [ ] 内に表した。

川県でも、丸亀シティフィルハーモニック  
オーケストラにより、《イル・トロヴァトー  
レ》が、丸亀市綾歌総合文化会館アイレク  
ス大ホールで、コンサート形式により全幕上  
演された。このように、それぞれ上演が確認  
されてはいるものの、各地のオペラの受容状  
況には大いに地域差が認められる。

表12の会場別総上演回数を見てみよう。新  
国立劇場は、2018年は73回と前年よりも増  
加、東京文化会館は2018年は28回（中・小  
規模会場を入れると31回）、日生劇場は21回  
へと前年よりも減少、兵庫県立芸術文化セン  
ターは18回（中・小規模会場を入れると21  
回）と増加した。このほか、びわ湖ホールが  
11回、JMS アステールプラザが8回（中・小  
規模会場を入れると14回）、ロームシアター  
京都が8回（中・小規模会場を入れると9回）

など上位を占めた。

## 6. 演奏会形式など

この他、C表に分類された公演、すなわち  
演奏会形式やセミ・ステージ形式等での上演  
等の記録はどうだったか。このカテゴリーで  
は、2017年には302回、2018年は384回が記  
録されている。しかし、ハイライトやカット  
上演なども含んだ数字であり、どの公演まで  
掲載するかという判断にも左右されるため、  
数字の変化はあくまで目安でしかない。しか  
し、これらの公演の中には、新作初演、特徴  
のある公演などが多く含まれているので、全  
幕上演を中心に、いくつかの事例を取り上げ  
てみたい。

（オーケストラ主催の演奏会形式等上演）

オーケストラの定期演奏会では、東京交響

楽団が飯森範親指揮でウド・ツインマーマン作曲の《白いバラ》を1回、東京フィルハーモニー交響楽団がチョン・ミョンフン指揮で《フィデリオ》を3回、アンドレア・バッティストーニ指揮でボーイト作曲の《メフィストフェレ》を2回、九州交響楽団がアンドレア・バッティストーニ指揮で《カヴァレリア・ルスティカーナ》1回を、それぞれ全幕上演した。これらは、いずれも優れた上演で、日本のオペラ公演史に確かな芸術成果を残した。

海外団体では、ロシア・ナショナル管弦楽団が、ミヒャエル・プレトニョフ指揮で《イオランタ》を1回演奏している。これらは、いずれも演奏会形式と明示したうえでの上演となった。

さらにアマチュア団体だが、愛知祝祭管弦楽団が「ニーベルングの指環」上演に取り組んでおり、三年目となる2018年には《ジークフリート》1回をコンサートオペラとして演奏している。

(音楽祭や劇場・音楽堂等主催の演奏会形式等上演)

東京・春・音楽祭が、ウルフ・シルマー指揮NHK交響楽団による演奏で《ローエングリン》を2回、演奏会形式で公演。前年までの「指環」に続いて、ワーグナー作品を取り上げた。

北とぴあ国際音楽祭は、寺神戸亮指揮、レ・ボレアードの演奏によりバロック作品を中心とする上演活動を毎年実施しており、2018年は《ウリッセの帰還》を2回上演した。

世界初演や日本初演となる作品も複数上演された。サントリーホールは、「サントリーホール サマーフェスティバル2018 ザ・プロデューサー・シリーズ 野平一郎がひらく」で、野平作曲の《亡命》を2回、作曲者自身の指揮により、世界初演した。さらに、東京芸術劇場が藤倉大の《ソラリス》1回を東京

芸術劇場コンサートオペラ vol.6 で日本初演している。

東京芸術劇場は、同じ年に佐藤正浩指揮で《真珠とり》を1回上演、これは東京芸術劇場コンサートオペラ vol.5 として行われたものの。

びわ湖ホールは演奏会形式により《デイドとエネアス》を3月に小ホールで1回、さらにびわ湖芸術文化財団主催の「かがり火オペラ」と題して、5月のゴールデンウィーク中に2回、ホール外の湖畔広場で野外上演している。こうした特徴のある上演が見られるのも、このカテゴリーならではのと言えるだろう。

## 7. まとめ

国内団体の大規模会場での上演回数が減少し、海外団体の上演回数も減少したままとなるなど、総上演回数に減少傾向が認められる。そうした中で、近年特にセミ・ステージ形式や演奏会形式等に、特徴のある公演や芸術的な評価の高い公演が、一定数見られるようになった。さらに世界初演や日本初演作品にも、演奏会形式等で取り上げられるケースが複数ある。

一方、大規模会場をもつ劇場・音楽堂等が総力を挙げて取り組む大がかりな公演や各地のオペラ団体による継続的な活動や全国共同制作の動きが、日本全国でのオペラ上演の拡がりを確保している状況でもある。

今後も、極力分析の手法は変えない方針をとりたいと考えているが、上演の状況に応じた柔軟な対応が避けられないだろう。数字が物語る、オペラ公演の上演傾向からみた社会と芸術活動の関係性把握を、この稿で今後も続けていきたい。

(本稿のデータ分析後に判明した公演記録があるため、巻末の公演記録と若干の相異点があることをお断り致します。)